

三重県工業研究所だより 第9号 (令和5年6月)

鋳物屋さんの生産現場を調査しました！

金属研究室では、地域の鋳造企業と共同で、溶湯添加剤や溶湯熱分析の活用による鋳鉄の溶湯品質向上に係る研究を進めています。

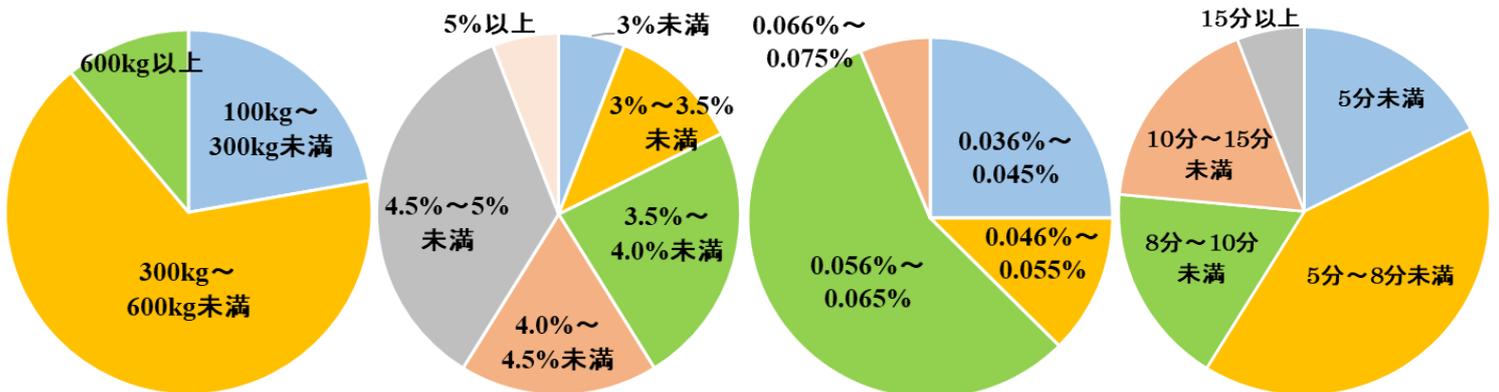
ここでは、三重県内 25 社の鋳造企業を対象とした、溶湯添加剤の使用状況調査の概要を紹介します。普段あまり知ることのない他社の操業条件を確認することで、各社の日々の操業のヒントにさせていただきました。

大変貴重なデータの提供にご協力いただき、誠にありがとうございました！

なお、詳細な報告は令和 2 年度 三重県工業研究所研究報告 P105 鋳造技術検討会事業報告 (URL: <https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/000983979.pdf>)からもダウンロード可能です。

ご意見ご感想、お尋ねになりたいことはお気軽にお問合せください！

球状黒鉛鋳鉄における溶湯添加剤の使用状況調査

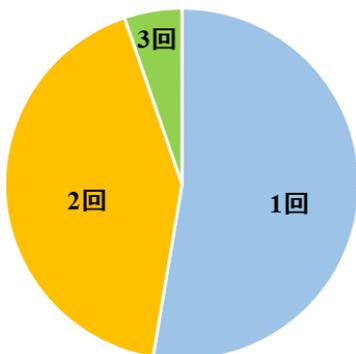


a) 球状化溶湯量

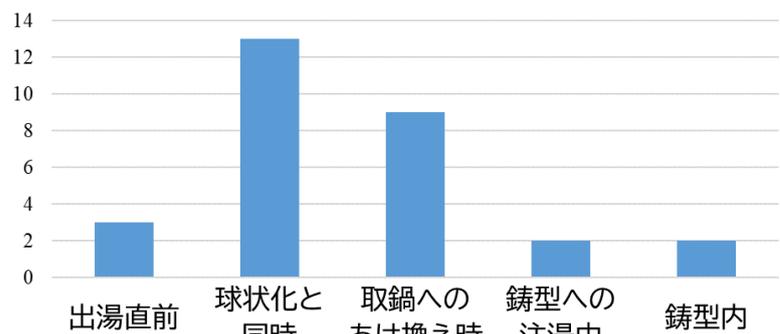
b) 球状化剤中の Mg 量

c) 元湯に対する Mg 添加量

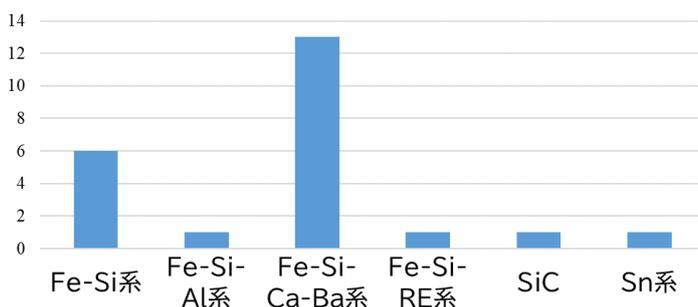
d) 球状化～注湯完了時間



e) 接種回数



f) 接種のタイミング



g) 接種剤の種類

元湯に対する Mg 添加量は 0.056～0.065%が過半数を占めていました。

接種回数は、1回と2回が半々くらいであり、接種剤の種類はFe-Si-Ca-Ba系、Fe-Si系が大多数でした。

担当:金属研究室 TEL:0594-31-0300